打出し木等の有効利用と副作業の軽減について

下呂営林署　　松　垣　　但

当事業所は天然林主体に生産事業を実行して来たが、年々減少傾向をたどり今年度より全て人工林に切り替り、10,900㎥の生産完了を目標に頑張っている。特に当署で生産するヒノキ材は「東濃ヒノキ」材として業界に広く知られているところである。この優良な材をより有利に販売するために、採材、造材技術が重要である。又近年の玉切装置導入により、副作業の軽減を図るため一台当りの造材量を多くする必要がある。以上の条件を満す場合、集造材終了後盤台跡地に多量の打出し木等が堆積しこれをそのまま放置することは林地の保全、利用の面から問題があり、又焼却等の処理をする場合はかなりの労力を必要とする。いずれにしろ、打出し木等の処理について、生産事業合理化の一つのネックになっているのが実態である。

今年度当署少ケ野貯木場に隣接している、コンテナー工業にこの打出し木等を処分し、事業実行の中で処分業者と連携することにより、資源の有効利用、造成歩止りの向上、副作業の軽減を図ることが出来たので報告する。

1. 処分方法について

予決令99条の5を適用、属積検知により売払った。

2. 打出し木等の利用について

従来現地で焼却していたものを、売払い処分することにより、どのように利用されているか紹介する。製材機にて板にし、これを接着剤でつなぎ合せ、さらに角材に挽いて住宅用ドアの芯材に利用する。製材出来ないもの、クズについては製材品の乾燥用ボイラーの燃料に利用する。

3. 現場における処分業者との連携作業について

打出し木等の搬出方法については、当初人力あるいはベルトコンベアにより直接トラックに積込む方法で実行したが、この方法は積み込みに時間と労力を要し、採算の面での問題と、せまい盤台附近で、最終送りのトラック積込、全幹集造材作業との併行作業となるため、安全の確保に問題があった。この問題解消のため処分業者と話し合い創意工夫する中で、トラッククレーンを利用し、①モッコによる方法、②鉄製のコンテナにに直接つめる方法に切に替えたところお互いの作業もスムーズに行く様になり、又労力、時間の面からも好結果を得た。

4. 実行結果について

以上申し上げた方法により、表1の2箇所の現地において実行した。現地の状況作業方法は表1のとおりである。これらの打出し木等を売払い処分したことにより、従来の焼却処理方法にくらべ副作業においては41人工、造材歩止りは3％の増となった。

5. ま　と　め

今日国内で消費される木材の60％以上が外材にゆだねられている現状から、国内で再生できる唯一の木材資源を有効にしかも大切に利用していくことは非常に大切なことである。幸い今回地元に研究熱心な会社があり、その会社とタイアップを図りお互いの利益向上のため協力し合うことができたことを有難く思っている。

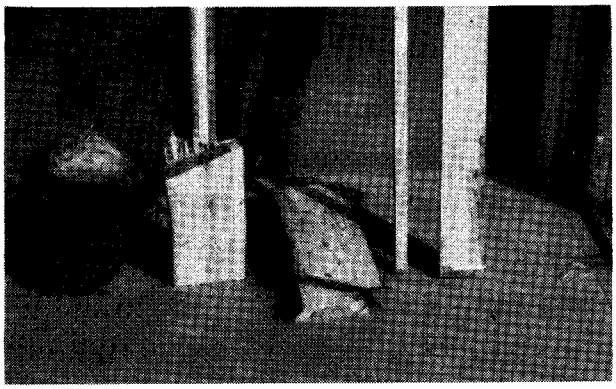
私達は現状にとどまることなく、生産者、利用者が一体となってさらに資源の有効利用、副作業の軽減、造材歩止りの向上を図り、山元生産の拡大、生産性の向上に向け努力を続ける覚悟である。

表－1.　実行地の概要

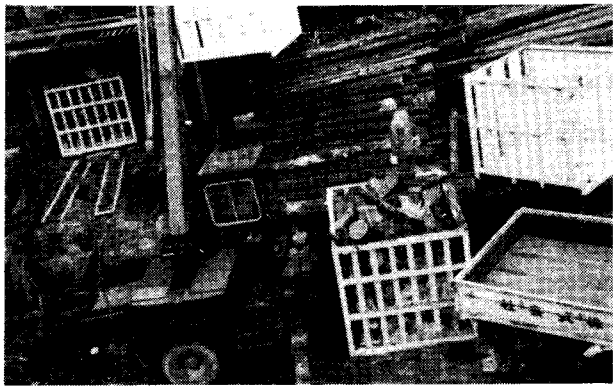
項目＼場所	長洞国有林59林班	厚谷国有林74林班
生産量	1,220 ㎥	1,132 ㎥
ha当り材積	404 ㎥	378 ㎥
立木資材石廻り	0,189 ㎥	0.283 ㎥
造材方法	ソー固定式玉切装置（協三電気式）	ソー固定式玉切装置（協三電気式）
盤台形式	平盤台	高盤台 2.5 m / 1.0～3.0 m
打出し木等搬出方法	人力、ローラコンベア	コンテナー直接落下

表－2　実行結果表

＼	処分した場合	処分しなかった場合（想定）	メリット
生産量	2,352 ㎥	2,284 ㎥	68 ㎥増
造材歩止り	78 ％	75 ％	3％増
収益	60 千円	0	60千円増収
副作業人工（打出し木、処理に要する）	0 人	焼却 24 人 運搬 135日×1h 整理 17 人 計 41 人	副作業 41人減



打出し木の利用状況



鉄製コンテナー利用による搬出状況